



総力をあげて「組織拡大」に取り組もう！

—「2025年度組織拡大実務者研修会」を開催—



写真上／講師 河野総合組織局長



【まとめ】

【産別事例報告】

大川局長 左から／UAゼンセン、JR連合、情報労連、紙パ連合
【グループワーク】

【団結してがんばろう！】

連合鳥取は6月21日(土)、「2025年度組織拡大実務者研修会」を新日本海新聞中部本社ホールにて開催しました。研修会には16産別と連合鳥取事務局から50人(うち女性8人、女性参画率16.0%)が参加しました。

講演

「改めて組織化の必要性を学ぶ
—組織化経験を交えて—」
連合総合組織局長 河野 広宣さん

講演では、日本の労働組合が直面している、①組織率の低下、②人材不足、③組織力の低下、などの現状について説明がありました。こうした背景から、集团的労使関係の構築が進まず、たとえ組合を結成しても過半数に届かず解散してしまうといった課題も紹介されました。

連合では、組織拡大の取り組みとして「組織拡大プラン2030」を掲げ、「フェーズⅠ」では組織拡大・強化の取り組み状況の調査、「フェーズⅡ」では組織の実態を踏まえた施策の深化を図っていくことについて、詳しく解説がありました。

産別事例報告

発表者① UAゼンセン

林 義仁さん

発表者② JR連合

亀山 泰孝さん

発表者③ 情報労連

飯塚 真吾さん

発表者④ 紙パ連合

門脇 光浩さん

代表して4人から、それぞれの産別における有期・短時間・契約等労働者の組織化をはじめとした、組織拡大に関する取り組み事例の報告をいただきました。

グループワーク

テーマ1: 現在取り組んでいる組織化の内容

テーマ2: 組織化の課題

参加者は「オープンシヨップ」、「ユニオンシヨップ」、「公務」の3つの形態をもとに8グループに分かれて意見交換を行いました。各グループでは、同じ形態の労働組合として、それぞれの産別や単組が抱える課題の共有、組織化に向けた取り組み事例の紹介など、活発な意見交換が行われました。

最後に、連合鳥取組織局長の大川達也局長による「まとめ」、山口一樹会長の音頭による「団結がんばろう!」を全員で行い、研修会を終了しました。

連合鳥取では、組織拡大への取り組みを最重要課題の一つと位置づけています。そうした中で開催した今回の研修会は、非常に有意義なものとなりました。

全国農団労
鳥取中央農協労働組合 小田 泰史さん



連合総合組織局長・河野さんの講演により、「連合組織拡大プラン2030」の方針を数値や図を通じて確認できた。特にダイエーユニオンのPA(パート・アルバイト)組織化の具体手順は、正社員のための単組にとって参考となった。産別事例からは、人とのつながりや情熱を持った活動が伝わってきた。今回のような研修への参加が、仲間を増やす第一歩になると実感した。

運輸労連
ヤマト運輸労働組合 田代 美鈴さん



初めて参加した。「オープンシヨップ」に関する講演を拝聴し、組織拡大と強化について理解を深めることができた。自らが「ユニオンシヨップ」でいることの先人の努力、組織拡大や強化の難しさを知り、その熱量(思い)が、元気に活躍できる職場を支え、選ばれる企業へとつながると思った。

参加者の声

投票に行こう! 参議院議員選挙 7月3日(木)公示 7月20日(日)投票

家庭&職場・労働組合でのジェンダーを考えてみよう

ー連合鳥取第21回男女平等参画学習会を開催ー

連合鳥取は6月7日(土)、エースバック未来中心(倉吉市)に83人(内女性41人・女性参加率49.4%)が結集し、「第21回男女平等参画学習会」を開催しました。

武庫川女子大学教授の本田一成さんによる講演と、「クミジョの『壁』『崖』を乗り越える道」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。

■講演 「クミジョ応援係長と考えるジェンダー平等と労働組合」

武庫川女子大学 教授 本田 一成 さん

【講演より抜粋】

これまでは男性正社員を中心とした「メンバーシップ型雇用」で人事制度が設計されてきたため、正規・非正規に関わらず女性社員は男性社会に組み込む形で雇用されてきていた弊害が未だに払拭できていない。

ジェンダーギャップ指数が低位にある現状と出生率の低下は無関係ではない。人口が減少しつつある現状は、労働力急減どころか欠乏時代へ向かっている。

最後の手段「ウーマンパワー(女性活躍社会の推進)政策」を実現しなければ日本は沈没の危機に。それを回避するために、本気で「女性活躍の社会的合意」と「ジェンダー平等」により、①雇用制度と慣行、②労働法制度、③社会保障制度、などを変えなければならない。

「労働組合」は、その役割を果たす力と機能をもっている。真剣に組織の問題と捉え、働きやすい、働きがいのある、安全な職場を実現し、クミジョ(組合女子)の「壁」「崖」「檻」の解消に挑んでもらいたい。



講演の様子



写真上/講師 本田教授

※クミジョ：労働組合に所属する女性、なかでも役員として活躍する人を指す場合が多い。

クミジョの「壁」：未だに家事労働など家族的な責任との両立求められる困難さを表す。

クミジョの「崖」：組織内で存在や意見が軽視される様や過労等で参加が困難な状態になる様子。

クミジョの「檻」：「壁」「崖」に「囲まれ、身動きできない様子」。

■パネルディスカッション 「クミジョの『壁』『崖』を乗り越える道」

コーディネーター：森 由香里 男女平等局長

パネリスト：山口 一樹 会長

伊東 利恵 局員

原 拓也 青年委員会事務局長

山名 佐智子 女性委員会事務局長

テーマ ①ジェンダー平等・ジェンダーバイアスの現状

②仕事と家庭の両立

③男女がともに働き続けられる環境とは

特に女性に負担が偏りやすい日常の家庭内での役割分担や、育児休業の取得をめくり、パネリストのみなさんの実体験を交えた活発なディスカッションが行われました。

家庭における夫婦間の協力関係については「互いの意思疎通を通してともに築き上げていくもの」という共通認識が示されました。男性の育児取得率は上がりつつありますが、家計への影響などから長期取得が困難な状況があります。また、出産直後や復帰直前は配偶者の協力が不可欠な状況も浮き彫りになりました。

改めて、ジェンダー平等を実現していくことの重要性を共有し、組合員一人ひとりがその実現に向けて取り組んでいくこと、そのためには当事者意識を持つことが非常に重要であることを確認しました。



コーディネーター&パネリストのみなさん



熱心に耳を傾ける参加者のみなさん



参加者の声

電機連合

FDK労働組合鳥取支部 井手野 桜子さん



本田先生の講演は「クミジョ」との対話のもとにジェンダー平等と労働組合を考えるという、今まで聞いた事のない内容だったが、自身の考えをズバズバ言われる先生の口調はキツイ言葉でも何故か心地よく、最後まで聴き入ってしまった。

また、パネルディスカッションでは、職場環境・年代の違うパネリスト4人のリアルな話が聞け、仕事内容や男性の育児取得など、誰もが少なからずジェンダーバイアスを持っている事に気づかされた。

全体を通して大変勉強になり、刺激を受けたので、また機会があれば参加したいと思う。

これからも「クミジョ」に磨きをかけて頑張ります!!

青年委員会

幹事 佐貫 綾香さん(全労金)



学習会に参加する前は「男女平等参画」という言葉にあまり馴染みがなく、どのような学習になるのかピンときていなかったが、自分の置かれている状況や将来の男女平等社会に向けて考えるきっかけとなる学習会だった。

講演で「クミジョ」という言葉を初めて聞いた。実際の労働組合の事例から、多様な働き方を支える仕組みづくりの必要性を痛感し、自分自身の行動を考えるきっかけになった。

パネルディスカッションで4人の異なる男女社会における経験や要望を聞き、自分の意見は固定概念だったということに気づけた。また、様々な働きやすい制度の周知・活用がとても大切だとも実感した。制度を整える、声を上げるといったことは簡単なことではないと思うが、一人ひとりの意識や行動が次世代の働きやすさに影響するということを学べた学習会となった。

■特集 打ち上げよう あなたの思い 投票で■

—第27回参議院議員選挙—

～7月3日(木)公示・7月20日(日)投開票～

各地域協議会は「第27回参議院選挙(鳥取・島根選挙区)」に取り組むにあたり、連合鳥取が推薦決定した「中山 集(なかやま あつむ)」さんの構成産別・単組への周知・徹底を図るため、「単組代表者会議」を開催しました。

【東部】 6月24日(火)

さざんか会館：58人参加



右から2番目が中山さん

【中部】 6月23日(月)

倉吉体育文化会館：29人参加



【西部】 6月16日(月)

米子コンベンションセンター：50人参加



がんばろう

公示日翌日から
投票日前日まで
期日前投票
できます！

理由はなんでもOK

- 出張などの仕事や冠婚葬祭などの予定がある方
- 旅行などの予定が入っている方
- 入院や出産などでその日に投票に行けない方

投票できる期間 公示日の翌日から投票日の前日まで

投票できる時間 8:30～20:00 ※それぞれ2時間以内の繰上げ・繰下げあり

投票場所 選挙人名簿に登録されている市区町村の「期日前投票所」
詳しくは市区町村の選挙管理委員会に確認してください。



Information

※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

2025連合鳥取ピースウォーク

◇メインスローガン◇

「子どもたちに核兵器も
戦争もない未来を」

今年は「戦後・被爆から80年」

誘いあわせて参加して

「平和」について一緒に考えましょう



地域	東 部	中央(中部)	西 部
日時	7月28日(月) 18:00～	7月25日(金) 18:30～	8月2日(土) 10:00～
場所	さざんか会館 5F大会議室(鳥取市)	倉吉体育文化会館 大研修室	米子市文化ホール イベントホール
内 容	◇平和行進 ◆主催者あいさつ ◆平和学習 講演「ウクライナへ思いを馳せて」 講師／(株)北条ワイン醸造所 ピロゴヴァ・マリーナさん ◆アピール採択 ◆エコキャップ回収	◆主催者あいさつ ◆平和学習 動画視聴 「夏服の少女たち」 ◆アピール採択 ◆エコキャップ回収 ◇平和行進	◆主催者あいさつ ◆平和学習 (子ども向け映画上映) ◆アピール採択 ◆エコキャップ回収 (平和行進なし)
平和行進 コース	【集合】18:00～ 鳥取駅南フコク生命ビル前→ 鳥取駅南入口交差点→ さざんか会館	【平和学習後、出発】19:40頃～ 倉吉体育文化会館→JR倉吉駅前	3会場とも「フードドライブ」を 実施します。



湯原俊二 — りょくひの想い —

思いを結集し、 参議院議員選挙で躍進し、 政治を変えましょう！

湯原俊二 政治信条 「緑肥の想い」

政治家、大企業、お金持ちのための政治ではなく、国民の暮らしを守る正直な政治に変えます。

レンゲ・クローバー・麦など収穫せずにそのまま田畑にすきこみ、後から栽培する作物の肥料にすることを緑肥(りょくひ)と言います。政治は、私利私欲のためではなく公の利益のため、また現在のためだけではなく、次世代につながるものにならなければなりません。例えば環境問題、教育問題、原発などエネルギー問題、国の借金の問題など、今の政治判断により次世代は大きく左右されます。しかし次世代の子ども達は、今、選挙権がなく政治を選択することができません。次世代がどうなるかを考えながら政治に携わりたいと思います。私は、そういう意味で「緑肥の想い」の政治を自らの政治信条としています。

日本は様々な課題を抱えており、政治が解決しなければなりません。例えば、所得格差、子どもの貧困、若者の非正規雇用、米不足、人口減少、東京一極集中、地方の疲弊、財政危機、地球温暖化などです。私は、2009年の民主党政権の政策を実行し続けていたら、これらの課題がここまで悪化しなかったと思います。

通常国会が閉会になりましたが、裏金問題は解明できず、企業団体献金の禁止も、選択的夫婦別姓も先送りになりました。また政府の物価高対策も国民は信用していません。マスコミから流されるイメージの政治や先送りの政治ではなく、課題を一つひとつ解決していく政治が求められます。

東京都議会議員選挙では、自民党が大敗し、立憲民主党、国民民主党が躍進しました。引き続き思いを結集のうへ、参議院議員選挙でも躍進し、課題を解決する政治に変えましょう。



梅雨の蒸し暑さにも負けず
街頭で訴えています(2025.6)

湯原さんのホームページ・
Facebookもご覧ください

湯原俊二

検索

二次元コードからも
つながります▶



“ザ・議員”

お ざ き 尾崎 かおる 鳥取県議会議員

ジュネーブ国連女性差別撤廃委員会 傍聴

昨年10月、ジュネーブで国連女性差別撤廃委員会の日本審査が行われました。

同委員会はこれまで日本に対し、育休の導入、男女の結婚可能年齢を同じにする、非正規雇用の処遇改善などを提言してきました。

今回は

- ・無意識の偏見をなくす政策・制度・法の制定や改正
- ・女性議員増をめざして国会議員立候補時の供託金(300~600万円)の減額
- ・男女の賃金格差是正
- ・選択的夫婦別姓の早期実現など多くの勧告を出しました。

傍聴に出かけた私たちNGOの意見も反映されています。この勧告の実現には「政治の意思」が必須です。私たちはこれからも注視し、励まし、進んでいきたいと思ひます。



ジュネーブにて

つ が わ し ゅ ん じ 津川 俊仁 北栄町議会議員

北栄町では、道の駅ほうじょうのオープン、国道9号との結節が高架でつながり北条湯原道路の概要が見え始め、新青山岡昌ふるさと館(概算28.1億円)の設計もできました。倉吉市に県立美術館がオープンし、県中部が熱く注目を浴びています。議員として、大きな事業実施の判断をする立場にある事に身が引き締まります。

先日、連合鳥取中部地域協議会主催の北条海岸清掃活動に参加し、心地よい汗を流した後にバーベキューを楽しみました。子ども連れの若い家族の参加が多く、大いに盛り上がりしました。この子どもたちの未来のために何ができるのか、よくよく考え確信しました。

「少子高齢化問題・子育て支援策・都市と地方の格差拡大解消のためには当事者である若い世代を中心に性別を問わない幅広い人材の政治参画が必要である」と。大谷翔平の二刀流を見習い、組合活動と政治活動の二刀流を提案し、組合員みなさんの立候補を応援します。

北栄町議会議員選挙は10月5日です。



北条海岸清掃後の
バーベキューの様子
(一番右が津川議員)

「業務改善」「ワークライフバランス」など、適正な労働条件や心と体の健康を守る流れがある。しかし、自分が働く現場では様々な要因により、「改善よし」「バランスよし」を実感できないでいるのが現状である▼そんな中、ほっとできる瞬間がある。気のおけない同僚たちとの何気ない会話である▼時間外のデスクワークが一時間、二時間と過ぎた頃、一人の同僚から声が上がった▼「ちょっと見てみて、空の色がすごいよ」▼勤務時間がかなり過ぎているにも関わらず居残りでデスクワークをしていた者たちが、一斉に顔を上げた。西の空に美しい夕焼け空が広がっていた。それをきっかけに、雑談が始まった。空の半分は夕闇が迫る中、職場はしばし明るい雰囲気となった▼業務でも頼りになる、忙しくても笑顔で会話ができる同僚たちの存在に、ほっと癒され、感謝する日々である。(かたつむり)



てんぐとんぐ



再生紙を使用しています